

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 21日

尼崎市長 殿

提出者

住所 尼崎市次屋2丁目2番24号

氏名 日鉄ステンレスアート株式会社  
代表取締役 金子渡

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

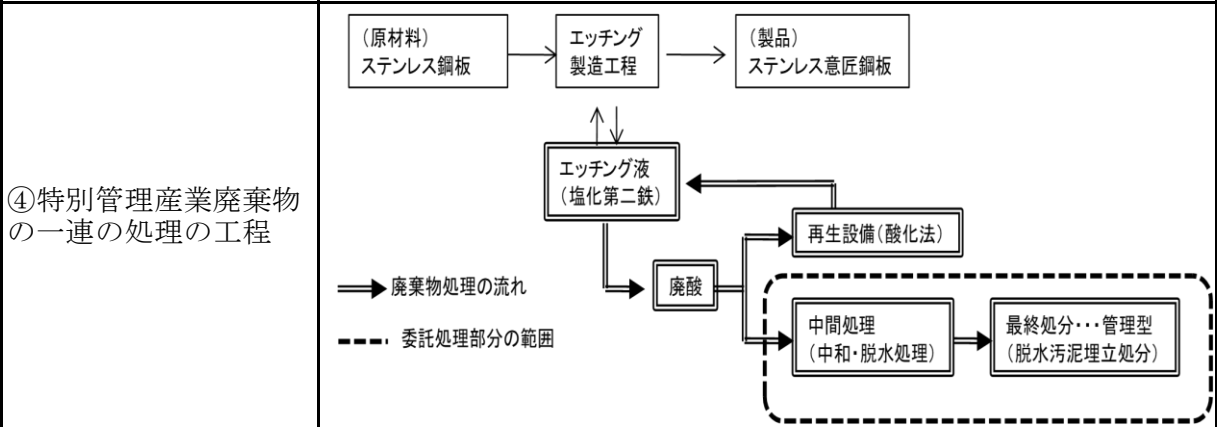
電話番号 06-6499-1157

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日鉄ステンレスアート株式会社
事業場の所在地	(〒661-0965) 尼崎市次屋2丁目2番24号
計画期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日

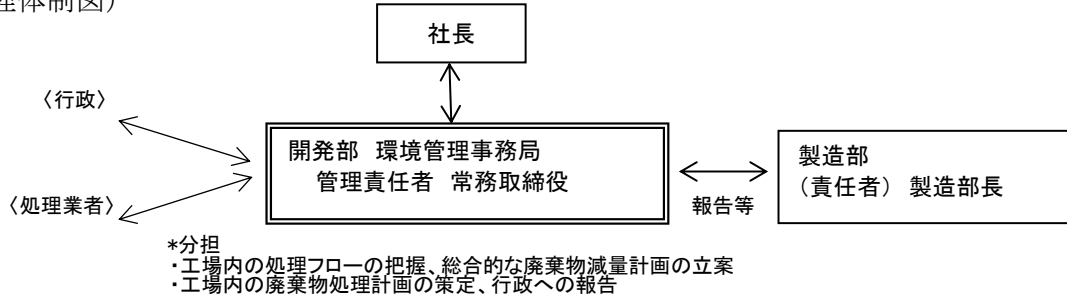
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	2469 その他の金属表面処理業
②事業の規模	製造品出荷額 154,534万円 (令和3年度実績)
③従業員数	80人 (令和4年4月時点)



特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	排出量	202 t	t
	(これまで実施した取組) ステンレスエッチング工程での使用済み塩化第二鉄は廃酸として排出していた。古液を酸化法によって再生することでエッチング液を再利用する技術に取り組み、H15年（2003年）4月設備化、排出量削減を実現した。新製品等によりエッチング製品の需要が高まっており、前年同様に再生液有効利用を図った。 H14年度 600t → R2年度 230t → R3年度 202t		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	排出量	210 t	t
	(今後実施する予定の取組) 比重や温度等でエッチング液の適正条件を広範囲で調整できる事により仕様寿命を延ばすことを実現。エッチング条件の異なる製品に対し効率のよい生産計画を立てることで交換頻度を抑えることに努め排出量削減につなげる。今年度生産見込量から昨年度と同等の目標値とした。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

## (第3面)

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	126 t	t
	（これまでに実施した取組） 前述での使用済み塩化第二鉄の酸化再生技術により、廃酸再生利用。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	110 t	t
	（今後実施する予定の取組） 生産量増減により、排出量は変化するが、従来使用済み古液の再生利用は1回のみであったところを再度、再利用（再再生）できるようエッチング液適正条件を見出すことを実現、これを継続させる。また製品仕様によって液条件を厳しく管理する品質に対し、条件データを蓄積、廃液量維持管理に役立てる。		

## 自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
（これまでに実施した取組） 特になし			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
（今後実施する予定の取組） 特になし			

## (第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（これまでに実施した取組） 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	t
	（今後実施する予定の取組） 特になし		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	全処理委託量	76 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	76 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
（これまでに実施した取組） 前述の、排出の抑制に関する取組み、および自ら行う特管産廃の再生利用に関する取組みで削減を図っている。 また処理委託先においても優良認定業者へ全量を委託している。			

②計画	<b>【目標】</b>		
	特別管理産業廃棄物の種類	7100 強酸	
	全処理委託量	100 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	100 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き再生利用の継続維持、および使用寿命延命で削減を図る。また生産増減、および品目ごとの適正条件に応じた液交換を考慮し液状態と生産タイミングで生産計画推進。効率のよい廃液サイクルに努める。</p> <p>また処理委託先についても引き続き、優良認定業者への委託を行う。</p>		
電子情報処理組織の使用に関する事項	<b>【前年度（令和3年度実績）】</b>		
	特別管理産業廃棄物排出量 (ホリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	202	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>2019.10月から、電子マニフェスト運用開始。 2021.4月～2022年4月までに5回の運用実績あり。 2022年度も引き続き、電子マニフェストで運用する。</p>		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。